



フォトレポート 湯前町は、ひなまつり

会場を春色に彩る手作りのぬくもり



周りへの感謝と意気込みを語った姉川代表

席。代表の姉川さんは「近所の人が古布を譲っていたら、くこともあり、素材一枚一枚に人の生活や生き様が込められているので、大切に使用している。郡市内だけでなく、県外のお客様から連絡をいただくなど、作品に込めたぬくもりが伝わってうれしい。お客様との出会いを大切に、ことしも頑張りたい」とあいさつ。参加者は甘酒を片手に乾杯し、展示をスタートさせました。

期間中は無休で、観覧時間は午前9時30分から午後4時まで。梅酒やお茶の振る舞いもあります。



5 来場者つながり、会員以外も多数の作品を展示している6 お手製の美味しい料理や茶菓子7 ひな人形とともに、ブローチやストラップなどの小物も多数



奥のスペースでは、お茶が振舞われ、ゆっくり時間が流れる



3 かわいらしい干支の亥4 春を感じさせる、新緑の梅の下げもの



1 ウサギのひな人形、セットにもこだわり2 本物そっくりのお寿司、小物にも力が入る



湯前町の風景をモチーフにした迫力満点の布絵

手作りのひなまつり展 古布のぬくもり大切に

町内のパッチワーク愛好家で作る「ひなの会」(姉川美恵子代表12人)の手作りのひなまつり展が2月10日から、湯前駅レールウイング内の展示体験販売施設で始まり、3月21日まで好評開催中です。

展示はひな人形を活用し、町内に春のにぎわいをつくらうと開かれ、ことしで17回目。作品はすべて会員が一針一針縫い上げたこだわりの「手作り」。

2月10日に開かれたオープニングセレモニーには、会員や町、施設関係者ら20人が出席し、展示に訪れています。

話を交わすなどして、笑顔があふれていました。

永山さんの妻で会員の治実さん(67)は「始まる前に来てくれる人や電話やメールで励ましてくれる人など、展示を待っていただいていることがありがたい」と話しています。展示は21日までを予定しています。



来場者を温かく迎える、いのかくらの皆さん

布と遊ぼう展 いのかくらの春が来た

「第7回布と遊ぼう展」が2月10日から永山哲男さん(68)上猪の古民家で開かれ、布飾りやひな人形などが色鮮やかに飾られています。

展示は布遊びグループ「いのかくら」(6人)が開催。八畳二間の和室には、会員が年間を通して作り上げたタペストリー(布の壁かけ)や下げもの飾り、ブローチ、干支にちなんだ人形、小物などがずらり。

ツバキのタペストリーは特に人気があり、展示が始まる前から購入の予約が入るほどです。来場者と会員の交流が広がり、竹細工や絵手紙、書道作品を提供する人もいて、年々展示の数も増えています。

奥の部屋には、休憩スペースがあり、来場者がイスに腰をかけてお茶やお手製の茶菓子などの振舞いを受け、ゆっくりとした時間を過ごしています。他人同士であっても会

予約が入るほど人気がある、ツバキのタペストリー

